

特集——駅チカ施設が高める地域のポテンシャル



# 三浦 詩乃

Miura Shino [中央大学理工学部都市環境学科 准教授、学長補佐]

ストリートから起こす  
都市のイノベーション



## ミュンヘンのストリートが研究者へのみちを示した

— なぜ、ストリートが研究対象にされたのですか。

もともと生物系に関心があったのですが、研究室に籠もり続けるのではなく、外の世界と関われるまちのデザインに憧れを持っていたので、景観系の研究室に入りました。東京大学には欧州の大学院と建築・都市分野の学生を相互に派遣・受け入れするAUSMIPという交換留学制度が当時あり、これを利用して日本の都市計画制度に影響を与えてきたドイツに半年間留学しました。日本の建設技術に関心を持ちミュンヘン工科大学に在籍されているトーマス・ボック先生のもとで研究のお手伝いをし、ミュンヘンのストリート文化にも触れました。そこでの研究結果がドイツで論文として発表されたこともあり、研究者という仕事に関心を持ち始めました。

## かつて日本のみちは本来の「ストリート」だった

— ストリートとは、どのような空間ですか。

ストリートの意味を説明する前に、日本における、みちの歴史をご紹介します。日本では、もともと自分の信仰する神様にお参りする足跡がみちになってきました。生活圏である此処と外界の彼処の往來を支える空間が「みち」とされてきました。語源は「御+路(みち)」といわれ、みちの先には人びとが神々や死後の世界を見出した豊かな自然があり、日常から解放されるような精神性で日本人はみちを歩いてきたのだと思います。江戸時代になると、間口がみちに直接面した町家型住宅が普及したことで、市が立つ特定の日にだけでなく、一年365日、みちが舞台になり、地縁を育む場所として親しまれるようになります。江戸時代中期以降は路上の屋台がにぎわうようになり、町人自身が生活に身近な場所を「持場」として手入れする自治的仕組みができてきました。こういう管理体制が築かれたものの、底流ではみちの聖域性を受け継いでいたようです。

現在、世界各国でまちの人たちの手にみちの空間を取り戻そうという「ストリート」という考え方が広まっていますが、それが自然にできていたのが江戸時代だと思っています。

### CONTENTS

#### 特集：駅チカ施設が高める地域のポテンシャル

SPECIAL INTERVIEW  
三浦 詩乃 氏 ..... 1

SPECIAL EDITION  
BASEGATE横浜関内 ..... 5  
SMC Japan Technical Center ..... 9  
OIMACHI TRACKS ..... 13  
北九州市立自然史・歴史博物館 いのちのたび博物館 ..... 15

RECENT PROJECTS  
株式会社豊田自動織機 共和工場 生技開発センター ..... 17  
社会福祉法人 東京緑新会 ケアコミュニティ みちふの森 ..... 19

くらしは文化  
旧長浜駅舎 ..... 21

\*本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。  
表紙写真：SMC Japan Technical Center

# 近代日本の道路整備が市民の行動様式を変えた

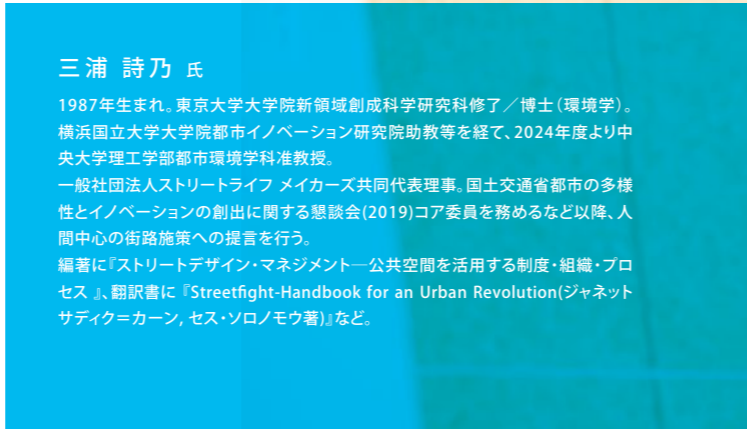
— 江戸時代以降、どのように変わってきたのでしょうか。

明治維新以後、近代日本の国際競争力を高めるために欧米に学んだ最新の「街路」計画が導入されました。1920年には街路構造令が施行され、一定規模以上の街路では車道と歩道を分離し、遊歩道には並木を植栽するなど、街路の構造や維持・保全・修繕などを定めた法律が制定されました。そこでは、街路に広場の概念が含まれており、道路とは区別していました。街路構造令と道路構造令がそれぞれ別にあつたので、技術者や管理者も機能面での街路と道路の区分を意識していました。幅員が広いみちは、クルマが交通するためだけに整備されたものではありませんでした。交通機能を高めるだけではなく、格式高い都市の軸線を造るという意識があつたのでしょう。広幅員の緑豊かな通りが整備され、近代街路には路面電車が走り、百貨店や喫茶店などの店舗が開かれ、近代街路が自由なライフスタイルの舞台となりました。しかし、西欧諸国が違和感を抱くような習慣（路上の屋台など）は取り締まられることとなります。日本人の生活文化がにじみ出やすい路上から、人の行動様式のありかたの管理が強化され、通りの維持管理は行政の義務へと変わっていきました。こうして、戦後にかけて公共用地と私有地、歩道と車道といった空間区分が厳密化し、道路管理者や交通管理者の役割が強化されていきました。

# 車中心の道路から「ストリート」を取り戻す

— 道路と自動車の関係をお教えてください。

第二次大戦後には自家用車の急速な普及に対応するため、道路法と道路交通法が制定され、自動車を対象とした道路整備が進められ、既存・新設の街路も管理されました。1958年には道路と街路で別々に設けられていた構造令も、交通容量を重視した道路構造令に一本化されています。モータリゼーションは移動や物流を支えた重要な進化でしたが、経済や効率を重視したために、みちから「暮らし」の視点が抜け落ちてしまいました。高度経済成長期には、交通事故死者数が増加し、排気ガスによる公害が沿道住民を苦しめました。とくに、子どもたちの遊び場は路上から無くなり、道路は身近な空間ではなく、事故が起きる危険な場所になってしまいました。こうして目の前の通りは自分たちが身近に管理し、世話をするという、もともとあつた面までが消えていったのです。近代街路から交通の効率を重視したクルマ中心の道路への切り替わりは、日本が参考にしてきた欧米でも起きました。道路と言われているところも本来は「街路・ストリート」的な空間でした。私たちは、このストリートを取り戻そうと考えています。本来、みちには暮らしがあり、その暮らしを豊かにする場でもありました。その在り方を考え、人が安心して過ごせるストリートにしたい。歩行者に対して開いて



**三浦 詩乃 氏**  
 1987年生まれ。東京大学大学院新領域創成科学研究科修士／博士（環境学）。横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院助教等を経て、2024年度より中央大学理工学部都市環境学科准教授。  
 一般社団法人ストリートライフメイカース共同代表理事、国土交通省都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会(2019)コア委員を務めるなど以降、人間中心の街路施策への提言を行う。  
 編著に「ストリートデザイン・マネジメント—公共空間を活用する制度・組織・プロセス」、翻訳書に『Streetfight-Handbook for an Urban Revolution(ジャネットサディク＝カーン、セス・ソノノモウ著)』など。

いる、ウォークアブルなまちづくりが必要とされているのです。現在、ウォークアブルシティやウォークアブルな空間づくりという政策が進んでいますが、オープンカフェの推進や公共交通機関の利用など、個別のメニューごとに目的化している傾向があります。本来は、それらを道路から街路空間を取り戻すためのどの段階に位置付けるか、つまりオープンカフェで終わりではなく、どのように歩行者ネットワークをつくるかなど、全体のロードマップを描かなくてはなりません。交通ネットワークやストリートを整備、改変するハードのデザインと活用や管理を含むマネジメントまでを一体的に捉える必要があります。それを継続的に変え続けることでまちの生活も変わっていきます。そのプロセスをちゃんと描きたいという目的もあり、実践や理論化を行ってきた皆さんと『ストリートデザイン・マネジメント』という本をまとめました。

# ハード更新につながる旭川のプレイスメイキング

—ストリートデザイン・マネジメントの例をご紹介します。

旭川平和通買物公園は世界でも初期に車道から歩行者空間に全面的に転換したみちで、1972年にJR旭川駅から北に1km続く商店街に開設された全国初の恒久的な歩行者専用道路です。1963年に構想が持ち上がったから約10年間、市役所や青年会議所の若者たちが会議を重ね、その熱い想いが警察や開発局などの関係省庁をも動かして、東京の銀座より早く歩行者専用化を実現させたといいます。冒頭に述べた留学先のミュンヘンも同時期に歩行者専用道路が進んだところで、そんな時代に生まれたストリートが今どうなっているか関心がありました。まちの構造や、その

空間がどのように使われ、皆がどのように感じているかを調査したのが私の修士論文です。それから旭川平和通買物公園に関わってきました。実際のストリートデザインは、行政や地権者、商店会、業界団体など、制度的・経済的な影響力を持つ多くの人の合意がなければ動きません。しかし、地域の将来を担う若者たちがその中に参加していない場合が多いのです。その結果、将来世代の柔軟な視点や新しいライフスタイル像が、まちづくりの議論に十分に反映されなくなってしまう。こういう構造をなんとかしようと、ここ2年間ほど、アドバイザーとして買物公園エリアプラットフォームでの「まちにち計画」に取り組みました。ここでは、多様な背景を持つメンバーが協働し、街路をまちの居場所として捉え直すプレイスメイキング実験を行いました。プレイスメイキングとは、公共空間を人びとが集い、交流し、活気ある場所へと変えていくプロセスや考え方のことです。単に「空間をデザインする」のではなく、コミュニティの人々が主体となって、その居場所（プレイス）としての意味を引き出していくアプローチです。旭川市の担当職員やコンサルタントのほか、旭川の地域性を理解された商店街のリーダー、若手店主、信用金庫と学生グループなどが連携。創造都市政策関係者や別地域からUターンで戻られた都市デザイン専門家なども一体のチームとして、自身の職能や才能（発信力、アート、イベント運営、データ分析など）をまちに活かしました。都市設計を専門としない人たちが議論に加わることで、むしろ一般市民の関心を集め、距離感を縮めることにもなりました。この取り組みはグッドデザイン賞（2025年度）を受賞しています。プレイスメイキングによって、人の行動や関係性、風景の変化を実感することは、街路というハードの更新に向けた意思決定の説得力を高めます。まだ、国内では単なる「にぎやかし」や空間演出とみられる方もいますが、プレイスメイキングが、人材と関係性が育つ貴重な機会となることが理解されてほしいと思っています。

# 世界中で進むストリートイノベーション

— ストリートはどのように変わっていきますか。

複数の車線がある幹線道路でも、東京の表参道のような場所では利用する人たちの約7割を歩行者や公共交通利用者が占めています。しかし、空間配分では、車のためにかなりの空間が割かれています。私はあえて「幹線街路」と呼んでいるのですが、現在はそういうストリートを変えていける潮目にあると思います。ニューヨークでさえ、目抜き通りのタイムズスクエアで2008年から順次自動車車線を減らし、2010年には広場空間に変え、今ではにぎわいが増し、多くの市民の支持を得ています。また、シャンゼリゼもかなりの空間を歩行者のために開いていくとしており、ロンドンではオックスフォードストリートを今年から、全面歩行者空間にする予定です。この潮流の基盤としてあるのが「スローストリート」。日本の道路では時速50～60kmが普通ですが、パリの中心市街地は時速30km制限です。これは万が一、ヒューマンエラーで事故が起きた際にも致命的にならない速度です。今年から国際交通安全学会の研究プロジェクトとして、幹線道路をその周辺地域に住む方々の命を守るスピードで運用できないか、社会的・市場的な受容性を検討していきます。これにより、ハードとしての街路のつくり方も変わってきます。このプロジェクトでは、幹線街路を身体活動を伴う、つまり心身の健康向上に資する歩行者・自転車・公共交通の利用者のために再配分するロンドン交通局「ヘルシー・ストリート」の施策担当者とも連携していく予定です。そして、東京都も上野や池袋駅前、八重洲通りなど幹線街路を歩行者のために開こうとしています。過去100年は、車のための交通システムに人びとの行動様式が取り込まれてきました。その逆を辿ること、つまり、これからの住環境のためのストリートづくりから、新たな価値観が生まれ、それを支える技術や仕組みのイノベーションにもつながると考えます。

— ありがとうございました。



アドバイザーとしてコーディネートした旭川平和通買物公園「まちにち計画」のスクール開催時のようす 提供：三浦 詩乃 氏

## BASEGATE横浜関内



ルーフクラウン(頂部底)をフルカラー投光器でライトアップし、軒のラインに照明を埋め込んだ「ザライブ」。背後は地上33階の「タワー」



(上) グレアレスダウンライトで床面照度を確保した「タワー」11階のスカイロビー  
(下) 横浜スタジアムが一望できる11階スカイロビー東側に設けられたラウンジ



### 横浜関内における新旧融合の大規模ミクストユース開発

2026年3月にグランドオープンを迎えたBASEGATE横浜関内は、総延床面積約128,500㎡の大規模な複合施設で、超高層「タワー」(地上33階・地下1階)と歴史的建造物の旧市庁舎行政棟「ザレガシー」、および新設のライブビューイングアリーナ「ザライブ」など複数の建物・空間で構成

されている。当プロジェクトは、「新旧融合」をコンセプトに掲げ、次世代の横浜を象徴するエンターテインメント&イノベーション拠点の形成をめざしている。「ザライブ」のルーフクラウンはフルカラー投光器「ダイナワン」により揺らぎを持たせた照明演出がされており、全8シーンのフルカラー演出を提供。周辺環境に調和し、施設の品位を保つ落ち着いた電球色や、

ハロウィーンやクリスマスなどイベント時に合わせた色など、多彩なカラー演出でにぎわいと特別感を演出している。「タワー」の外観は、隣接する村野藤吾氏設計の旧横浜市庁舎行政棟の柱形状を踏襲し、「上昇感あるデザイン」とした。オフィスエリアは12階から33階に位置し、1フロア約2,200㎡の大面积無柱空間で、システム天井用照明器具に高光束タイプを用い、

照度センサを利用した照明制御システムにより消費電力を削減。環境・快適性にも配慮し、CASBEEスマートウェルネスオフィス認証Sランクを取得している。さらに、11階スカイロビーには企業の枠を越えた交流を促すラウンジを設けるなど、働きやすさとイノベーション創出を支援する環境が作り出されている。



©株式会社川澄・小林研二写真事務所

#### BASEGATE横浜関内

所在地/神奈川県横浜市中区港町  
事業者/三井不動産株式会社(代表)、鹿島建設株式会社、京浜急行電鉄株式会社、第一生命保険株式会社、株式会社竹中工務店、株式会社DeNA、東急株式会社  
設計・施工/鹿島建設株式会社(タワー)  
設計・施工/株式会社竹中工務店(ザライブ、ホテル、商業施設など)  
ランドスケープデザイン/株式会社ランドスケープ・プラス  
グランドオープン/2026年3月



## エンターテインメントと食が融合する 日本最大級のライブビューイングアリーナ

BASEGATE横浜関内の特徴は、従来の再開発には見られなかった大規模なエンターテインメント施設の導入。株式会社横浜DeNAベイスターズが運営する「THE LIVE Supported by 大和地所」は、スポーツを始めとするエンターテインメントと食が融合する、日本最大級の常設型ライブビューイングアリーナ。横浜スタジアムでの試合や、音楽ライブ・演劇、パブリックビューイングなどのイベントで圧倒的な臨場感を提供している。アリーナの1階は飲食エリア「LIVE FOOD HALL」で、大型ビジョンを見ながら食事が楽しめ、屋上階には横浜スタジアムの熱気を屋外で感じて食事ができる、テラス付きレストランが設けられている。

パナソニックは、約18m、高さ約8mの巨大なLEDメインビジョンに加え、全長約34.5mのリボンビジョンなどの照明・音響・映像設備と、これらを統合制御するIT/IPプラットフォーム「KAIROS」を提供。LEDメインビジョンが見づらい座席位置にはLEDサイネージが設けられ、場内のどこでも映像や音響が楽しめるように配慮。さらに、メインビジョン下部の中央は開閉式となっており、ステージとして使用することで多目的なイベント利用も可能となっている。

## 駅とスタジアムを結ぶ 歩行者ネットワークの結節点

「ザライブ」のルークラウン照明演出(P.5写真)は、街区の中央に設けられたセントラルプラザやJR関内駅を利用する人を迎える。

BASEGATE横浜関内は、建築物であると同時に、関内エリアの歩行者動線を再編する都市インフラとしての役割も担う。当街区から横浜スタジアムおよび横浜公園方面へ直結するデッキが整備され、駅とスタジアムをシームレスにつなぐことで、まちの回遊性を劇的に向上させ、関内駅周辺の立体的な歩行者ネットワークの結節点となることが期待されている。

◀ (上) 幅約18m、高さ約8mの巨大なLEDメインビジョンと、全長約34.5mのリボンビジョンを備えたライブビューイングアリーナ「THE LIVE Supported by 大和地所」  
(下) ムービングライトと映像、音響をKAIROSで制御することで熱狂の空間をつくり出す。サイネージ左下は開閉式ステージ

## THE LIVE Supported by 大和地所

事業主 / 株式会社横浜DeNAベイスターズ  
設計・施工 / 株式会社竹中工務店  
オープン / 2026年3月



照明・音響・映像設備を統合制御する「KAIROS」操作卓



「LIVE FOOD HALL」各所に設けられたLEDサイネージ



映像と合わせて空間を演出するムービングライト



アリーナ各所に設置されたスピーカーシステム



アリーナのライブ感を高めるミラーボール



IT/IPプラットフォーム「KAIROS」制御装置

## 街区配置図



- 1 タワー
- 2 グリーンウォークテラス
- 3 ザライブ
- 4 ザレガシー
- 5 スタジアムサイドテラス

## 主な納入設備

- タワー
  - システム天井用照明器具
  - ダウンライト
  - 建築化照明
- ザライブ
  - 大型ビジョン
  - ムービングライト
  - 音響設備
  - ネットワークカメラ
  - 総合演出システム
- 外構部
  - ライトアップ演出用照明器具
  - 建築化照明
  - 庭園灯

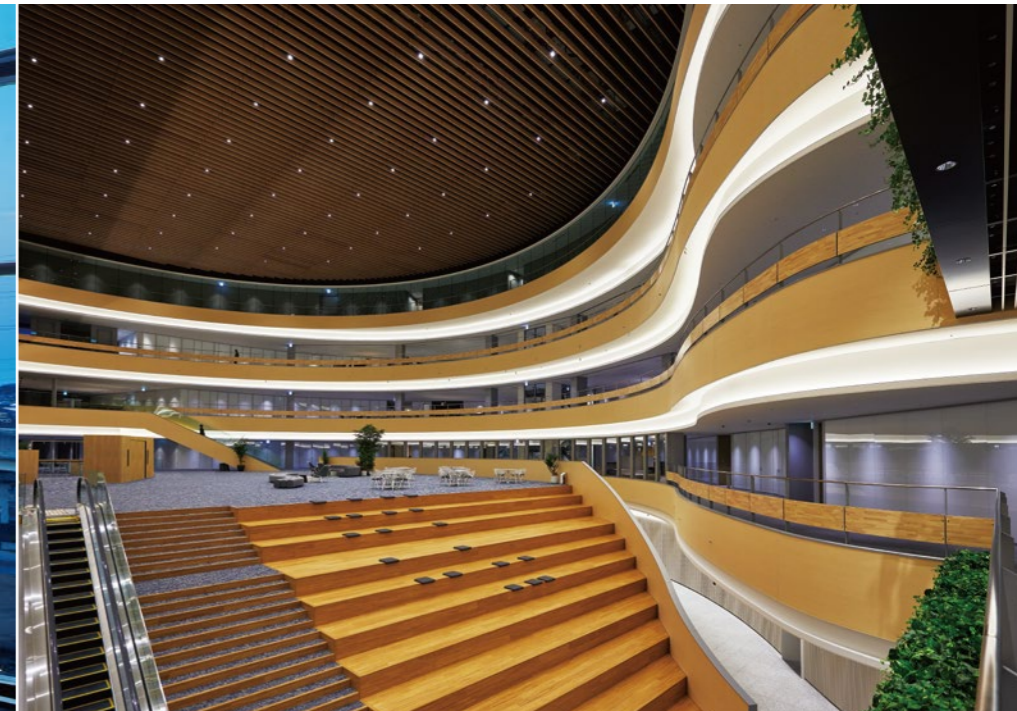
WEBサイトで動画が  
ご覧いただけます



# SMC Japan Technical Center



Bldg.A 吹き抜けに設置した特注のペンダントライトは外部からもエントランス越しに視認でき、その象徴的な造形によって来訪者にこの建築の記憶を高める役割を果たす



(上) Bldg.A アトリウムは照明のノイズを軽減した特注シーリングとR形状に配置した間接照明で空間を包み込む  
(下) 間接照明が2階のアトリウムにいざなうBldg.A 5層吹き抜けのエントランス

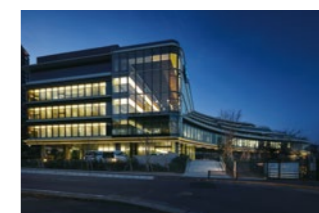
柏の葉スマートシティに誕生したSMCグローバルフラッグシップ拠点。2005年のつくばエクスプレス開業により、ゴルフ場などが広がっていた柏の葉エリアで新市街地整備が始まった。東京大学や千葉大学を始めとした日本屈指の研究機関が隣接する立地特性を活かし、「世界の未来像」をつくる街というコンセプトのもと、公・民・学の7つの構成団体（柏市、三井

不動産、東京大学、千葉大学など）が共同運営する任意団体UDCK\*が設立され、柏の葉キャンパス駅前に拠点を開設した。UDCKはその後策定された「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を推進し、実行する中心的な役割を担うこととなり、2011年には「スマートシティ構想」を発表。柏の葉スマートシティに建設される施設は全て、このビジョンに沿って協議のもと誘致される

こととなった。この地に産業創出するイノベーション企業として参画を表明したのが、自動制御機器のグローバルリーダーであるSMC株式会社。ゴルフ場跡地に建設されたSMC Japan Technical Centerは、世界中から顧客や研究スタッフが集い、最先端技術の交流や新たなイノベーションを創出する、SMCのグローバルフラッグシップ拠点と位置付けられている。



\*UDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha: 柏の葉アーバンデザインセンター)



**SMC Japan Technical Center**  
 所在地/千葉県柏市若柴  
 事業主/SMC株式会社  
 設計/KAJIMA DESIGN  
 施工/鹿島建設株式会社  
 電気工事/Bldg.A 株式会社間電工  
 Bldg.B 株式会社ユアテック  
 Bldg.C 株式会社きんでん  
 開業/2026年3月  
 規模/5階建・3棟  
 (建築面積: 29,337㎡、延床面積: 90,788㎡)



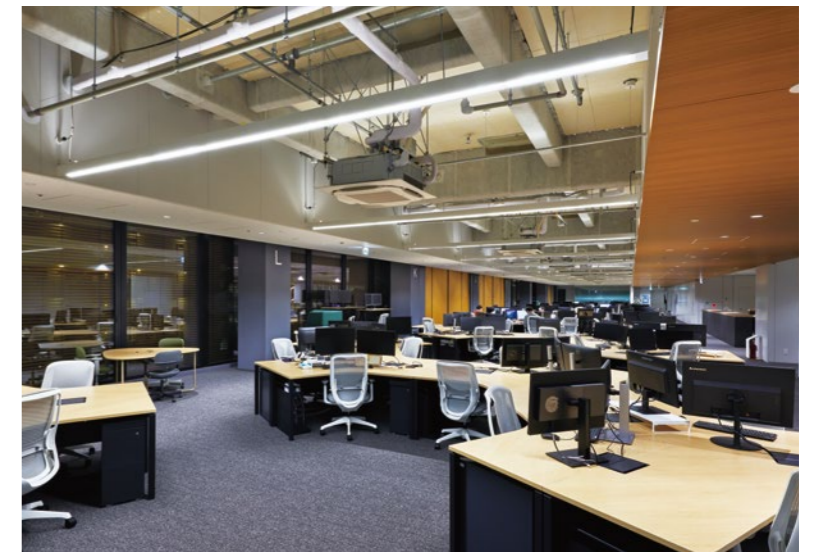
## 周囲の自然環境とも調和した 地域に開かれた研究開発拠点

SMC Japan Technical Centerは、5階建・3棟で構成されており、延床面積が約91,000㎡におよぶ大規模施設。健康で快適に働くことができる「スマートウェルネスオフィス」をコンセプトとし、研究開発における創造性と生産性を最大化する環境整備を重視している。とくに、バイオフィリックデザインの導入により、自然光の活用や緑化空間との連続性、視環境の質向上などが図られ、CASBEE-建築(新築)とCASBEE-ウェルネスオフィスでSランクに加え、ZEB Readyが取得されている。

柏の葉キャンパス駅からのメインアプローチに位置するBldg.Aは、同センターの顔としての役割を担う。敷地形状に合わせた特徴的な曲面のファサードを備えており、エントランスホールに多様な吹き抜け空間を設けて空間に変化を持たせ、東面は一面ガラスカーテンウォールとすることで、まちに与える閉塞感をなくした開放的な印象を創出。また、一般市民が利用可能なオープンカフェを設けている。さらに、隣接する水辺空間「アクアテラス」と一体化し、周囲の遊歩道を敷地内に引き込み桜並木を整備するなど、地域に開かれた空間が創り出されている。

Bldg.Aでは、多様な吹き抜け空間が設けられた延長100mにおよぶ建物を光の帯でつなぎ、水平方向の照明が空間に統一感を与え、積層することにより空間を立体的に際立たせている。

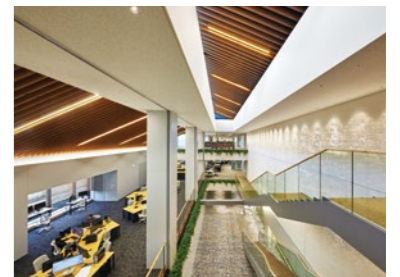
3棟の中で最大の床面積(約44,000㎡)を誇るBldg.Cは、敷地前に豊かな森が広がる「こんぶくろ池公園」が位置し、その環境と連携するように構造の一部に耐火木造が採用されている。また、Bldg.Bは2つの都市公園に隣接するオフィス棟をシームレスにつなぐ。ワークプレイスという面でもBldg.AからB,Cと進むにつれ、オフィスワーカーが働きやすい空間が広がるようにデザインされている。



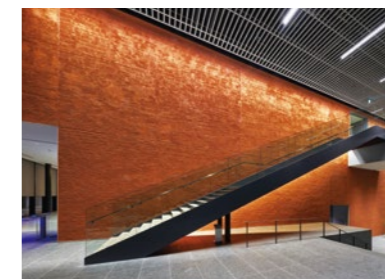
Bldg.B 固定席執務スペースは上下配光特注ラインペンダントとグレアレスダウンライトによる構成



Bldg.C 固定席スペースはスケルトンとボードエリアで同形状特注照明器具を使い分ける構成



Bldg.B ABW執務スペースは細長い空間構成を生かす建築意匠と一体となった照明計画



Bldg.C エントランスは特注ライン照明で床面と空間を印象付ける赤い壁面を照らす



Bldg.A 吹抜けの打ち合せスペースは特注デザインペンダントライトと間接照明で照度確保



Bldg.C 食堂はインテリアと屋上テラスを考慮した照明計画



Bldg.A セミナールームは0~100%調光のダウンライトにより多目的な使用が可能

### 主な納入設備

- 特注ラインペンダント ● 特注デザインペンダント
- 特注シーリング ● 特注ライン照明器具
- グレアレスダウンライト ● 建築化照明器具 ● 調光システム

◀ (上) Bldg.C ABW執務スペースは耐火木造の柱を考慮した照明配置を検討  
(下) Bldg.A 固定席執務スペースはルーバーと一体化させた照明計画で上方の明るさも確保



TRACKS PARKからBUSINESS TOWERと背後のHOTEL&RESIDENCE TOWERを望む。JR大井町駅トラックス口から続くTRACKS STREETは3階レベルでデッキとして接続し、計画中の品川区新庁舎(左側に建設中)を経て、しながわ中央公園に至る予定

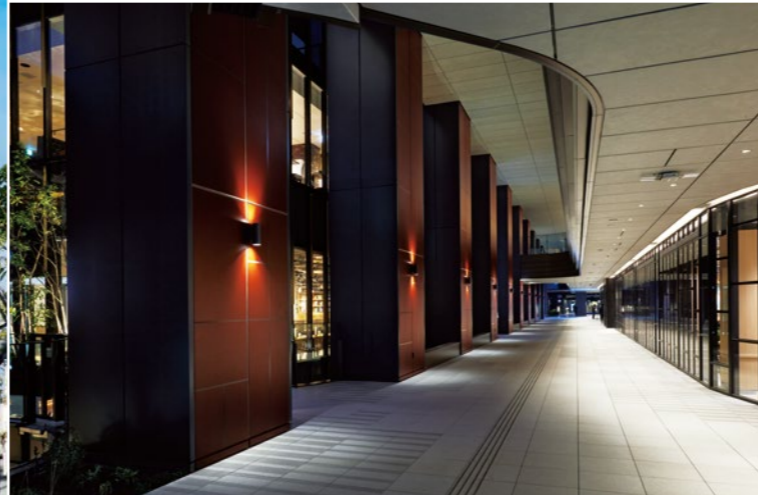
# OIMACHI TRACKS

## 広域品川圏の未来を拓く 都市生活共創拠点

大井町エリアは鉄道車両工場や保守基地として約100年の鉄道史を持つ場所である。ここで、2026年3月、延床面積約26万㎡の大規模複合施設OIMACHI TRACKSがまちびらきを迎えた。JR東日本は、浜松町駅から、田町駅、高輪ゲートウェイ駅、品川駅、大井町駅へと至るエリアを一つの経済圏・生活圏とする「広域品川圏」構想を主導する。JR東日本の社宅跡地に誕生した、オフィス、ホテル、賃貸レジデンス、商業施設81店舗を備えたOIMACHI TRACKSは、この構想における、「都市生活共創拠点」と位置付けられている。

BUSINESS TOWER、HOTEL & RESIDENCE TOWERという2棟のタワーと3つの広場からなる当施設は、周囲と分断されていた敷地を、歩行者ネットワークで接続することで、大井町エリアの都市構造そのものを書き換える。大井町駅に新設された「トラックス口」に面するSTATION PLAZA、施設北側のTRACKS PARK、施設中央の動線が交差するCROSS PLAZAという3つの広場とアウトレットモール型商業施設を組み合わせて回遊性を高めるとともに、東側に計画中の品川区新庁舎と歩行者デッキで接続することにより、大井町駅からしながわ中央公園に至るシームレスな都市軸を構成する予定である。

※DALI (Digital Addressable Lighting Interface)  
国際標準規格 (IEC 62386) に基づく最新のデジタル照明制御プロトコル



(上) CROSS PLAZA上部の大屋根 (中) TRACKS STREETの赤い柱に設けられたブラケット (下) ファサードに垂直に走るライトアップ

## OIMACHI TRACKS

所在地 / 東京都品川区広町  
 事業主 / 東日本旅客鉄道株式会社  
 設計 / 株式会社JR東日本建築設計  
 建築工事 / 株式会社竹中工務店  
 電気工事 / 株式会社きんでん(オフィス棟低層)、株式会社クラフティア(オフィス棟高層)、浅海電気株式会社(オフィス棟中層)、株式会社雄電社(住宅・ホテル棟)、株式会社中電工(商業・屋外)  
 まちびらき / 2026年3月



間接光とダウンライトで構成されたBUSINESS TOWERのエレベーターホールの照明



TRACKS STREETの植栽に設けられた庭園灯



貸室面積が約5,000㎡を超える基準階執務室のシステム天井用照明器具



基準階執務室のシステム天井用照明器具はDALI®対応

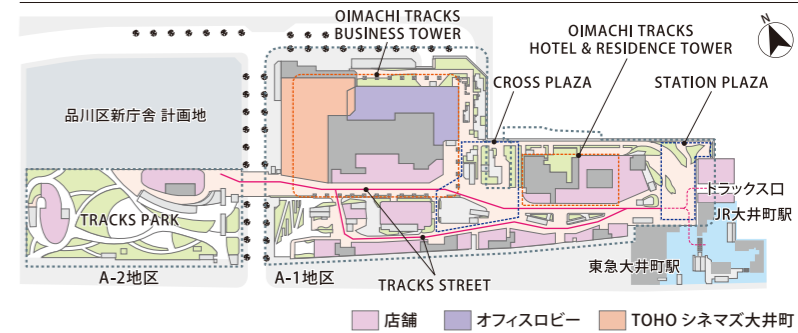


照明制御システム「ESU-BA (DALI®対応)」



防災センターに設置された監視カメラシステム(左)と非常放送設備(右)

## 敷地平面図



## 主な納入設備

- システム天井用照明器具 (DALI)
- LEDスポットライト
- LEDローボールライト
- 照明制御システム (DALI)
- 入退室管理システム
- インターホン設備
- ネットワークカメラ
- 非常放送設備



入口から奥に進むことで、時代順に古生代・中生代・新生代に生きていた生物の展示が見学できる自然史ゾーンのアースモール。天井の壁際のダウンライトがユニバーサルダウンライトに更新された

### 北九州市立自然史・歴史博物館 いのちのたび博物館

#### 今後のメンテナンスや運用に配慮し 展示室の白熱灯を無線調光LED器具に

2001年にJRスペースワールド駅前で開催された「北九州博覧祭2001」のメイン施設を改修し、翌年に誕生したのが「いのちのたび博物館」で、地球誕生から現在に至る生命の進化と、北部九州の旧石器時代から現代までの人々の歴史を「いのちのたび」として扱う。自然史ゾーンのアースモールは奥行約100m、高さが15mを越える巨大な無柱空間で、入口から古生代・中生代・新生代に生きていた生物を展示。歴史ゾーンのカルチャーモールでは、約15mの吹き抜け空間に黒崎祇園行事の笹山笠が展示されている。

このたび、この2展示室のハロゲン電球ダウンライトがLEDに更新され、調光調色が可能な無線調光システム「WiLIA」が採用された。博物館のユニバーサルミュージアム推進担当係長・学芸員の大橋智之氏は「アースモールでは、既存照明との調和を図るため、タブレットで1灯ごとに調光調色を行った。これまで暗かった恐竜の顔部分が映えるようになった」。歴史担当係長・学芸員の宮元香織氏は「カルチャーモールでは、光源に近い幟部分の照度を抑えることができ、メンテナンス時には白色光で100%出力することで点検や清掃も安心してできる。数多く残る蛍光灯ゾーンも計画的にLED化を進めていきたい」と語る。



**いのちのたび博物館**  
■照明設備LED化工事  
所在地 / 福岡県北九州市八幡東区東田  
事業主 / 北九州市  
設計 / 共同設計  
電気工事 / 株式会社三協電気  
リニューアル工事竣工 / 2026年3月  
規模 / RC造3階建(敷地面積:約31,000㎡、延床面積:約17,000㎡)



カルチャーモール(歴史ゾーン)のダウンライトは笹山笠の幟部分の照度を抑えて調光



視認性の高い昼白色はメンテナンス等で活用検討  
※写真の色温度は実際の運用とは異なります



照射角を調整して顔が明確になったエレモテリウムの骨格見本



ティラノサウルスの顔を立体的に照射するユニバーサルダウンライト



タブレットにより1灯ごとの照度と色温度を調整



「WiLIA」タブレットの操作画面

- 主な納入設備
- LEDダウンライト
  - LEDユニバーサルダウンライト
  - 照明制御システム

ギガトサウルス協力:国立科学博物館  
スピノサウルス Courtesy of The University of Chicago

# 株式会社豊田自動織機

共和工場 生技開発センター

## ワーカーの声とエビデンスをもとにオープン会議室をWell-Beingな空間に

共和工場生技開発センターは、生産技術部門の本社機構として工法開発や設備製作を行う部門。そこに設置されていたオープン会議室が、新しいミーティングエリアにリノベーションされた。会議室が開放型のため、隣接する設計チームから会議の音が気になるという指摘を受けた設備技術室機械設計第4G GM 大島康之氏は「WEBでパナソニックのサウンドマスキングを知り、worXlabを訪れた。そこで触れた多様な課題を解決するソリューションが、その後のオフィスリノベーションを考える際に役立った」と語る。程なくして、全社的なオフィス環境を整えるリノベーション計画が始動。大島氏より提示された15の課題を基にパナソニックが提出したのが、WELL認証の考え方をベースにしたプラン。コミュニケーションエリアではWEB会議にも対応できる環境を整え、集中エリアには個人ブースを設けて作業環境を整える。その間に、コミュニケーションの交差点としてリフレッシュエリアを設ける計画だった。「当社では、設備導入時に根拠の提示が求められるが、私たちが積み上げてきた要望と、めざす方向を理解してくれた上で、理由付けやエビデンスをもってコンセプト立案も手伝ってくれたので助かった」と大島氏。



BEFORE



AFTER



AFTER



AFTER

1. リノベーション前のオープン会議室。画面奥にあるのが利用頻度が少なかった書庫 2. リノベーション後のコミュニケーションエリアは自然を感じさせる木調の空間に 3. 使われていなかった書庫はリフレッシュエリアと集中エリアに 4. worXlabで出合った多彩な製品が納められたリフレッシュエリア

### 社員ヒアリングによって抽出された15の課題

No	課題
1	コミュニケーションエリアでの会議の音が気になる
2	機密性の高い資料の作成場所がない
3	発表練習できる環境がない
4	周囲を気にせず1人でもオンライン会議に参加できる場所がない
5	会議室が少ない（予約が取れないことが多々ある）
6	少人数で気軽に相談ができる会議室が欲しい
7	会議中に立って、見せたいところを指さすか、人にマウスを借りる手間がある
8	生技開発センターが保有している丸いマイクを使用すると相手が聞こえづらい
9	キャビネットの汚れが気になる
10	照明が古臭い、ミーティングに適していない照度?
11	香りの効果は大きいと聞くが快適さの体験をしたい
12	例えば、ミーティングエリア①とミーティングエリア②にて会議した場合、隣が気になる
13	気分転換できる空間が欲しい
14	ミーティングエリアの机のサイズが大きいため、真ん中がもつたいない
15	照明が明るすぎて、画面がみづら

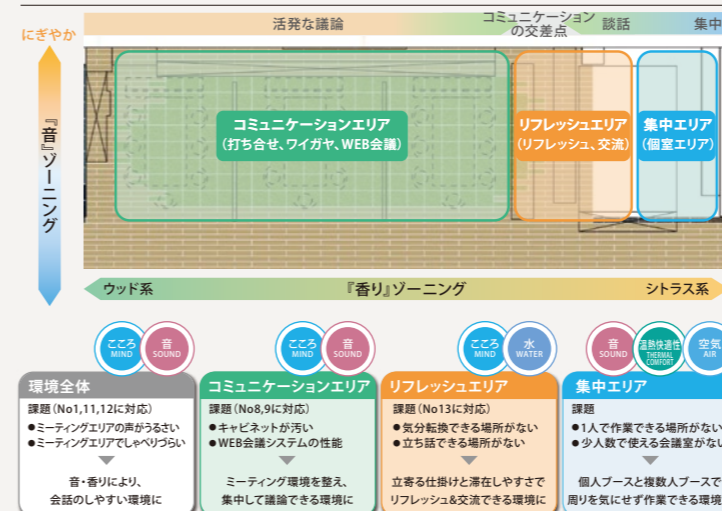


所在地 / 愛知県大府市共和町茶屋  
 事業主 / 株式会社豊田自動織機  
 オフィス計画 / パナソニック エレクトリックワークス株式会社  
 施工 / パナソニック EW エンジニアリング株式会社  
 リニューアル竣工 / 2025年8月

WEBサイトでも  
 ご覧いただけます



### WELL認証のコンセプトをベースに課題に対応するゾーニングを提案



### リノベーションのイメージをCGによるパースで具現化



### 主な納入設備

- 環境音BOX
- 個室ブース「SOLO BASE」
- スポット気流
- サインマッピング
- イーブロックスタンド
- 天窓 Vision
- 新無線照明制御システム LiBecoM
- エアライトルーバー

## 社会福祉法人 東京緑新会 ケアコミュニティ みちふの森

### 木のやさしさに包まれる レジリエントな福祉施設

調布飛行場に隣接する「みちふの森」は、医療的ケアが必要な障害のある方々に対応する福祉施設。木造の3階建てで「切妻屋根と大きな窓が印象的なファサードをはじめ、木質感を基調に五感に働きかける内装で、福祉施設らしさを感じさせないようにした」と建築家 加藤陽介氏（株式会社楓設計室）。施設を利用する本人や、その家族目線で「通いたい」と思える空間を設計した結果だ。1階と2階の天井には不燃軽量造作材「エアライトルーバー」を採用し、実材の木を使えない制約下でも、木質感を担保しつつ、ホテルのような印象の空間に仕上がっている。

重要なレジリエンス機能として先進的な耐火構造により、高い耐震・防火性能を確保しており、避難が困難な利用者を考慮して設計されている。運営面では、入浴介助を効率化する高齢者施設向けユニットバス「アクアハート F-eX」や天井走行リフトを動線に設置するなど、先進的な福祉施設として、人材確保が困難になりつつある運営サイドの負担軽減にも寄与する。

施設見学会での喜びの声や多数の問い合わせなど、利用者や地域の期待も大きく、社会福祉法人東京緑新会「みちふの森」所長 仲田素直氏は「目の前で離陸する飛行機のように、利用者の皆さまの気持ちが飛び立つような施設をめざしたい」と語った。



©Naoomi Kurozumi

所在地 / 東京都調布市西町  
事業主 / 社会福祉法人東京緑新会  
設計・監理 / 株式会社楓設計室  
施工 / 株式会社トーヨー富士工  
竣工 / 2026年2月

WEBサイトでも  
ご覧いただけます



空間のあらゆる箇所に木質感があふれる2階のリビングルーム。天井には不燃軽量造作材「エアライトルーバー」を採用し、空間に個性を演出



機械浴槽が設置された高齢者施設向けユニットバス「アクアハート F-eX」にも木質感のある壁柄を採用し、施設全体と統一感のあるコーディネートに



内装ドア「VERITIS」は車いすで通過できるように開口の広い引戸タイプを採用



個室内はシステム収納「キュービオス」とアクアハート洗面を同系色でプラン



参考画像  
介助をサポートする天井走行リフト（他社商品）

#### 主な納入設備

- 不燃軽量造作材「エアライトルーバー」
- 高齢者施設向けユニットバス「アクアハート」
- アクアハート洗面 ● 内装ドア「VERITIS」
- 「キュービオス」 ● 「アラウーノ」

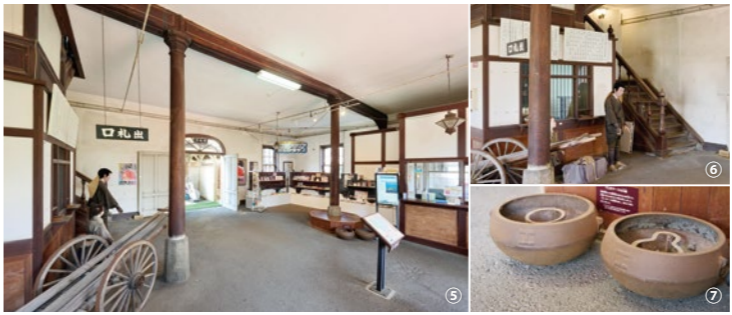
# 旧長浜駅舎

## 石灰コンクリートで建てられた現存、日本最古の駅舎

滋賀県長浜市に残る旧長浜駅舎は明治15(1882)年11月の竣工。現存する日本最古の駅舎で、新橋駅を模して建てられた洋風建築である。設計はイギリス人鉄道技師・ホルサムと推測され、神戸の稲葉弥助が施工した。昭和33(1958)年、日本初の鉄道記念物に指定。



現存、日本最古の駅舎である旧長浜駅舎。旧国鉄が日本初の鉄道記念物に指定した。



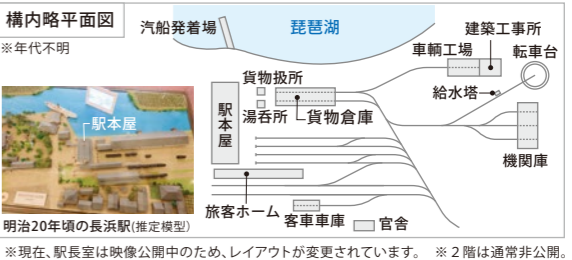
⑤ 汽車と汽船を乗り継ぐ三等旅客が利用した待合室。⑥ 出札口 ⑦ 三等待合室に置かれた手あぶり用火鉢。鉄道建設を担った工部省のマークがある。



⑧ 休憩室 ⑨ 駅長室 ⑩ 倉庫係室 ⑪ 世話係室では当時の鉄道連絡船発着場を映像で再現(写真左)。



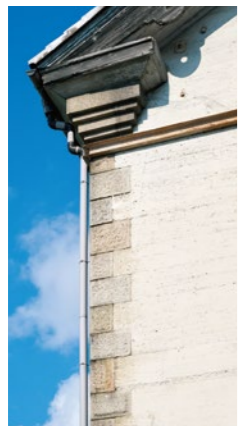
⑫ 2階ではトラス構造が見える。各所のデザインなどにも洋風のしつらえがある。⑬ 手すり子に鹿鳴館風の装飾が施されている木造の折り返し階段。⑭ レンガの窓枠と白い鍍金がモダンな印象。内側にガラスの上げ下げ窓がある。



明治維新で誕生した新政府は、明治2(1869)年、欧米列強に追いつくための国策の一つとして鉄道敷設を掲げ、新旧の都である東京と京都をつなぐとともに、琵琶湖周辺から敦賀に達する鉄道で太平洋と日本海を結ぶことをめざした。明治15年3月、長浜～敦賀間に日本で5番目となる鉄道が開通。この敦賀線の始発駅として、また長浜～大津を結び琵琶湖に就航した鉄道連絡船に接続する駅として同年11月に旧長浜駅舎は建設された。お雇い外国人であったイギリス人鉄道技師、ホルサムの設計と伝えられており、施工は神戸の稲葉

弥助が請け負ったと記録に残っている。旧長浜駅舎は木骨構造、石灰コンクリート造りで壁厚は50cm近くある。四隅を花崗岩の算木積みとし、外壁上部にはレンガの角を突き出して並べたドクトゥース(犬の歯)と呼ばれる飾りが見られる。新橋駅を参考にして建てられた英国風の2階建の建物で、その1階には旅客の待合室や出札口、駅長室、駅事務所などが、2階には鉄道の管理を行った事務部門があった。2階では天井にトラス構造が現しになっており、窓にはコロナル風の鍍窓を備える。館内の廻り階段やその手すりの意匠に

鹿鳴館を思わせる趣があり、豪華なしつらえになっている。駅舎の西側、すぐ近くにあった棧橋に鉄道連絡船が発着。長浜～大津間が鉄道で結ばれるまでの約7年間、就航した。鉄道連絡船が終業し、新駅舎が建てられたことで、旧長浜駅舎は役割を終了。その後、現存する日本最古の駅舎として保存され、昭和33年に日本初の鉄道記念物に指定された。また、平成17(2005)年には滋賀県指定有形文化財にもなっている。現在の長浜駅舎は旧長浜駅舎がモチーフであり、往時を忍ばせている。



① 建物の四隅は曲谷(まがたに)産の花崗岩を使った算木積み。



② 壁材の石灰コンクリートは、明治初期の限られた期間だけにしか使用例がない。



③ 軒下に施された装飾、ドクトゥース。レンガは幕末から明治期に取り入れられた建築材料の一つ。



④ ① 旅客通路の上にあった庇の名残の木材。② 1927～1928年頃の旧長浜駅舎。



⑤ レンガが積みの煙突。⑥ 右の煙突は1階の一等二等待合室などの暖炉と結ばれている。



用語説明  
【お雇い外国人】明治初期～大正期に、欧米文化を輸入するため政府などが雇った外国人。  
【コロナル風】英国などの植民地で17～18世紀に発達した建築様式。  
滋賀県長浜市北船町1-41  
協力:長浜鉄道スクエア



## お問い合わせ



パナソニックのソリューションに関するお問い合わせはこちら →



## パナソニックの空間ソリューション



## あかりと電気設備のデジタルショールーム 電気設備BOX



## パナソニック ショールーム 住まいのショールーム



## パナソニックのバーチャルショールーム



**札幌** 〒060-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地  
☎ 0570-087-315

**仙台** 〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号  
仙台本町三井ビルディング内  
☎ 0570-087-315

**東京  
(汐留)** 〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号  
パナソニック東京汐留ビルB2F  
☎ 0570-087-315

**横浜** 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3丁目3番3号  
横浜コネクストスクエア2F  
☎ 0570-087-315

**名古屋** 〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号  
☎ 0570-087-315

**大阪** 〒540-6303 大阪市中央区城見1丁目3番7号 松下IMPビル3F  
☎ 0570-087-118

**広島** 〒730-8577 広島市中区中町7番1号 パナソニック広島中町ビル2F  
☎ 0570-087-118

**福岡** 〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号  
☎ 0570-087-118

※開館日や時間を変更したり、事前ご予約制とさせていただく場合があります。ショールームご来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。

## ワークプレイス メイキング をめぐる旅

A Journey through workplace making

ワークプレイスや  
それを取り巻く「場」を  
どう育てていくか、  
さまざまな事例に  
ふれていきます。



### Vol.07

「ソトワーク」の最適環境を考える  
「ルビーの里 エクステリアガーデン」



## 継続能力開発 (CPD) 自習型認定研修

### 設問

次のうち誤っているものはどれか。

- 品川、新橋、新宿を結ぶ「広域品川圏」という構想がある。
- 明治時代には道路構造令と街路構造令が別にあった。
- 旭川平和通買物公園は全国初めての歩行者専用道路である。

関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記Webサイトから。  
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発 (CPD) の「自習型認定研修」教材として認定されています。